

南無阿弥陀仏は
私のいのち

平成 23年
12月号
えこお
NO.
407

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobiirou.jp/>
発行人 岸本 秀一
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



12

毎年この時期になると、何気なく口にしている言葉が私にはある。「もう年末だ」、「一年が過ぎるのは早い」と。何気ない言葉だが、本当は自分の過ごし方が問われているのかかもしれない。おそらくは心の奥底で、今までの在り方を通して未来に不安を抱いているに違いない。

「足をとめて」

今まで私は人生プランの様なものを立てて過ごしてきたように思うが、予定通りにいつた記憶があまりない。本当ならとっくに結婚しているはずだった。家族や親戚から、結婚を期待する声を聞くが、努力しても何故かうまくいかない。自分の要求に執着するあまり、自己を見失い他を傷つけるような事を何度も繰り返してしまった。そのような自身の在り方は、空しくもあり痛ましい在り方ではなかつたか。私を不安にさせる原因は何であるのか。そして、この一年何を求めてきたのか。私達はその事を、自身に問う事なく、他にあるのだとと思い込んでいいだろうか。

経典の言葉を読み返すと、「不急の事を諍そう」とある。急ぐべき事は、不安の元を外に探すのではなくて、実は、私自身が引き起こしているのだと。そのような私と向き合つていく道が開かれている事が教えられている。

群生海

「必ず帰る」

越谷市在住

隠岐 弘子さん



今回は東日本大震災の為に福島県から避難され、越谷にお住まいの隠岐弘子さんにお話を伺います。

一時帰宅されて

自宅は原発から二十キロ圏内でですが、製造業を営んでいる関係で許可をもらい戻りました。畳は真っ黒で壁にキノコが生えてました。それには驚きましたね。

そして行く度に草木が成長しているんです。もちろん鳥や虫もいるんです。だから何がいけないのかと思うし「もう住めない」とは思えないんです。私はお陰様で家がありますので戻る気持ちは強いです。でも放射能の問題で子供達は戻れないかもしれませんね。

避難解除されても帰らない人が多いです。そうするといつまでも町が復活しないんです。ですから自分が先に戻り町を開きたいんです。そういう同志が何人かいらんなんです。

保障問題について

お金での保障は出来ても、それを作る生活まで保障出来ないと思っています。でも保障する側に依存してしまうと自分で再建をしていくという視点を失うんです。

そのためには企業が立ち上がり雇用を生むことが先決だと思っていました。でも現実は風評被害が大きいので果たして成り立つか不安です。

怒りの対象は?

国策による原発の不手際は色々出てきたけども、もとは地震や津波の自然災害でしょう。それに近郊の方々が原発の仕事で生活をしていたんです。だから憎いとは簡単にはいえます。原発に怒りはありますが、私達も望んで豊かな暮らしをしてきたわけですよね。ですからみんな同罪かもしません。

立ち上がりたい

他の生物が事実、今は生き抜いています。どのような現実でも生きる意義を見出しが出来るのではないか、それが本願のはたらきなのではないかと思うんです。

簡単に「放射能で戻れない」と言うのではなく、戻るためにどうするかということを具体的に考えたいんです。かつて広島も驚異的な復興をしたわけでしょう。

私自身は立ち上がりたいと思うます。めげていられないんです。

(聞き手 山崎 哲)

なん^①で? 「葬儀」

数年ぶりに訪ねてくださったご

門徒さんから「弟が亡くなりました。火葬場でお経をあげてください」との相談を受けました。最近よく耳にする「直葬」の依頼でした。

葬儀とは大切な方やお世話になつた方とのお別れの儀式であると共に、残された家族・知友が悲しみを機縁として生死に迷つ者を照らし出す、南無阿弥陀仏の教えにふれる大切な仮縁だと教えられます。

いのちは本来、自分のものではありません。私たちは偶々^{たまたま}両親を縁としてこの世に生を受けましたが、時代や環境など何一つ選ぶことができず、最後には必ず死が訪れます。葬儀とは私が今、こうして生きていることを支えてくださる世界(阿弥陀)に目覚め、あらためて自分の人生を問いかけていく仏事なのです。

王様であつた時の法藏は、別名無
諍念王（言い争うことのない世界を
ひとえに念じる王様らしくない王
様）ともいわれていたと、親鸞聖人は
メモ（高田本山蔵の断簡）しています。

だから、世自在王仏に出遇つて、國と
王を捨てた法藏は、師の世自在王仏

のように、自分も仏となり、師仏のよ
うに迷い苦しみ悩むものの根元を断
ち切り、すべての人々が自在に生き
られる國作りをしようと決意します。

そして、その願いは、自分の身が苦
しみのただ中におかれても、決して
翻はしないと誓い、世自在王仏に
その教えを請います。この法藏菩薩
の懇願と決意の大きさを見抜いた世
自在王仏は、人間の想定を絶した
二百一十億もの諸々の仏の淨らかな
國や、そこに生きる人々の生活や善
悪のようすを、くわしく見せられま
す。そのすべてをよく見極めた法藏
菩薩は、この上もない殊勝な願を建
てるよう修行します。

それは、老いに苦しむ人、病に倒れ
て泣いている人、死の不安におびえる
人、愛する人と別れて悲しむ人、嫌な
人と顔を合わせて困っている人、いつ

も求めるものが得られない不満の人、
生きることに疲れている人々が、そ
れでもその全体を背負うて、生き生
きと生きられる國の建立を検討し
たのです。思えば、この身があるとい
うことです。法藏菩薩の願いで

そのまま、妄想の束縛から解放し
たいという人が、法藏菩薩の願いで
あります。

そしてこの願いが、完成しないな
らば、自分は仏には成らないという、
まだかつてない

大きく弘い誓い
を起きました。

それが、法藏菩薩

の四十八願です。

やがて、その願い

が完成して、法藏

菩薩は阿弥陀仏

となられますの

で、阿弥陀仏の四

十八願ともいわ

れます。インドの

マカダ国（いだい
である韋提希夫

人は、わが子阿闍

世に背かれて王

宮深く閉じこめ

られた時、お釈迦様の導きで、極楽

世界の阿弥陀仏のみもとに生まれた

いと榮（ねが）うようになります。そ

なければいいと一人相撲でもがいて

教えを戴いて「阿弥陀の本国四十八願

なることを明かす」（『教行信証』）と
いわれます。

つまり、法藏菩薩に建立された國

こそが、本国であり故郷であつて、わ
れわれの「おのれよければすべてよ
し」とする世界は、故郷を失つている

というのです。だから、四十八願は、

すべての人々が帰るべき本国の憲法

であるといえます。それで、法藏菩薩

は、淨土を建てる四十八願の第一番

目に「わたしの国は、地獄・餓鬼・

畜生と呼ばれるあり方、すなわち戦

争と貧困と、恐怖のない國にしたい」

と願われ、第二番目には、「地獄・餓鬼・

畜生と引き受けられるような

國民にしたい」と願われました。だか

ら、第四十八番目の願では、阿弥陀

仏のみ名を聞くものは、みなさとり

を見失うことなどはないと願われてい
ます。

こうして、だれでも、いつでも、どこ

でも、本国に帰る憶念の道として、第

十八番目（本願の中心）に、南無阿彌

陀仏と念佛もうすことが選ばれるこ

とになります。



しょうしんば 正信偈の話④

觀見諸仏淨土因、國土人天之善惡、 建立無上殊勝願、超發希有大弘誓。

（諸仏の淨土の因、國土人天の善惡を觀見して、無上殊勝の願を建立し、希有の大弘誓を超發せり。）

松井憲一

「山門の言葉」

親切にしても
人を
選んでいる

親切とは「相手の身になつて、その人のために何かをすること。思いやりをもつて人のためにつくすこと。また、そのまま」と辞書にある。自然に身体が動いたはずの親切が、実は無意識に人を選んでいたという事実に驚かされた事がある。

私は小さい頃から親にも教えられ、人を選ばずに親切にできたらと思っていた。お年寄りの荷物を持つたり、電車で席を譲つたりと。しかし先日テレビを見ていると、東北の大震災で被災された方々の救助に向かつた自衛隊の方がインタビューに答えていた。「たくさんの人達が水に浸かっている状況で、とてもじゃないが全員を救命ボートに乗せることはできない。怒号が飛ぶ中、病気の人や命の危険がある人を優先的に乗せたんです」と話されていた。

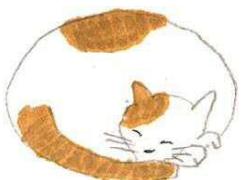
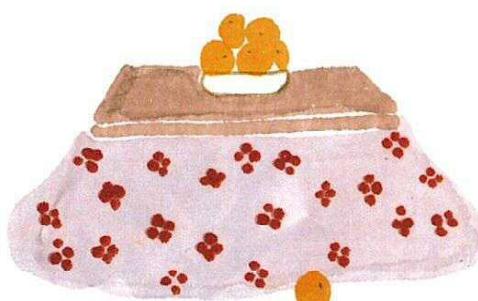
人を救うというときも様々な条件により、みんなに同じようにというのはできないというのは分かる話である。

しかし、人を選ぶということは差別といえるのではないだろうか。十

年前、京都の本山仏光寺で行われた研修に参加し、私は「差別はしてはいけない」という話をした。すると仲間から「人間は差別なしで生きていくのではないか」と言われた。

正直に言うと、なかなか領ることではない。「私は差別をして生きている」なんて「言えることではないだろう」ところが、親切にするにしても私の価値観が入る。そうなると差別といふことにもなる。それが事実なのである。それが良いとか悪いとか、やめるとかやめないと云うわけではなく、そうでしか生きられないのではないだろうか。しかも、その事実になかなか目を向けられずにいる。
親鸞聖人の「ぞうざい雜毒の善」という言葉にそういうことを感じさせていただくわけである。

(仲井 真裕 記)



日誌

- 
- 10月 25日 仏具磨き
 - 10月 27日・28日 宗祖忌
 - 10月 29日 混声合唱団「エコー」練習
 - 10月 30日 城南ブロック会聞法会
(目黒さつき会館 参加者 18名)
 - 11月 5日 6日 報恩講(両日布教使 永尾道雄師)
 - 11月 7日 8日 中興忌
 - 11月 8日 責任役員会 総代会
 - 11月 11日～20日 本山茶所布教(山崎)
 - 11月 12日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 高橋 淳
 - 11月 13日 城西ブロック会聞法会
(中野商工会館 参加者 15名)
 - 11月 15日 仏教青年会報恩講
講師 大下 勝師
 - 11月 19日 定例聞法会
混声合唱団「エコー」練習



えこお志お礼

滋賀県・栗東市 浄光寺様

新潟県 横山 一雄様

越谷市 小林 清蔵様



掲示板

12月

平成24年
1月



- 3日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
10日(土)午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 蓮井 邦宗
14日(水)午後1時 婦人会聞法会
本山リーフレットに聞く
「いま、お寺は」
17日(土)午後1時半 定例聞法会
午後3時半 評議員会定例役員会
午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
22日(木)午後1時半 教行信証「信巻」に聞く(第74回)
講師 宗 正元師
31日(土)午後3時 歳暮法要

- 元日(日)午前6時 修正会
7日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
8日(日)午前11時 婦人会新年会
13日(金)午後1時半 教行信証「信巻」に聞く(第75回)
講師 宗 正元師
14日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
17日(火)午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く
講師 宗 正元師
21日(土)午後1時半 定例聞法会
22日(日)午後3時 評議員会新年会
28日(土)午後5時半 同行会新年会

大遠忌ニュース

①帰敬式

いよいよ西徳寺での大遠忌法事が近づいてまいりました。親鸞聖人の750回忌法事が4月28日(土)29日(日)の両日に行なわれます。今回28日に予定しております『帰敬式』についてご案内致します。

『帰敬式』とは『おかみそり』とも言い、仏さまの弟子となる儀式で、受式後に法名を頂きます。
真宗においては「戒名」と言わずに「法名」と言います。『末法灯明記』には「無戒名字の比丘」とあり、
釋尊を去ること遙かな時代には、保つべき戒律はすでに消失し、名だけで実が伴わない僧・弟子ばかり
となるが、それでも大事な存在であると教えられています。

法名は「釋〇〇」と、必ず釋尊の弟子であることを表す「釋」の文字が付きます。釋尊を代表とする無
数の仏さまの歴史に連なる名前であります。

戒律一つ保てなくとも、無量無数のつながりの中に育まれ生かされている喜びを表す名前であります。
この機会に帰敬式を受けられますようお勧めします。なお『帰敬式冥加金』は2万円です。申し込み用
紙は後日送付致します。

編集後記

先月、佛光寺本山において御祥当報恩講が厳修され、27日の深夜には佛光寺伝統の「通夜布教」が
ございました。西徳寺から法務員の大橋・高橋の両名が出勤されました。

二人とも緊張しておりましたが、歴史ある法座に身を置き、古から仏法聴聞が繰り返されてきた道場
(大師堂)で背筋を伸ばして法話をされる姿に、かつて自分も同じ経験をさせていただき、冷や汗を搔
いたことを思い出しました。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobiiryo.jp/>